



新世紀のキャンパス
Campus of New Century

愛知学院大学 日進キャンパス



中央のサークル周辺をキャンパスコモンとし、けやきテラスの建築と、ランドスケープデザインが同時進行する大プロジェクトだ。

緑豊かな環境の中に融合するように、ガラスキューブをイメージしたけやきテラス。



ウッドデッキ、芝生、シンボルツリーのけやきが調和する学院の杜。中央に見えるのは学園祭用の舞台。

愛知学院大学の日進キャンパスは、豊かな自然の中に学部棟と、野球場、サッカー場、陸上競技場など6つのグラウンドをもつ郊外型キャンパスだ。このたび5号館を改築、「けやきテラス」という愛称で2008年秋にリニューアルオープンした。同時にその周辺一帯を「学院の杜」として整備する、キャンパス整備マスタープランが進行中である。

曹洞宗設立の総合大学で、「行学一体・報恩感謝」を建学の精神とする同大は、行学一体から文武両道を重んじ、クラブ活動も盛んである。当初の計画では、メインの第一学生食堂(旧5号館)を建て替える予定だった。しかし、この場所が北側の講義棟エリアと、南側のグラウンドエリアのちょうど中心に位置し、スポーツ(行)と勉強(学)の結合する場所、オンとオフのクロスポイントであることから、ここを新たなキャンパスコモンとし、建築とランドスケープを融

合させたマスタープランがスタートした。建学の理念を反映し、既存施設や自然の景観を損なわず、地域に開かれた大学をさらに進化させるという基本方針が進められている。

中心となるけやきテラスのコンセプトは「外が見える、外から見える」。友人等が来ることが内外の双方で確認できる空間を目指した。1Fには学生から要望の高かったファーストフードが入るフードコート、2Fはカフェテリア形式のダイニングコート、3Fは企業説明会等に利用できるアセンブリーホールを配置した。「授業が終わってここへ来ると、ガラス越しに緑が飛び込んできて、寛いでまた授業に戻るという、オンとオフの切替えができる」と学生からも好評だ。

ランドスケープでは、ウッドデッキで巨大なサークルを描き求心性を高めることで、キャンパスの中心に学生

が集まってほしいという思いを込めた。また、もともと別々の建物だったけやきテラスと「さくらテラス」を、自然の風が通り、グラウンドが見える最適の間隔を空けて渡り廊下でつなぎ、エリアに一体感をもたせた。東側にある坐禅堂を尊重し、櫻(けやき)と桜(さくら)の樹木を活かしたこのランドスケープデザインは、禅的精神を随所に感じさせる仕掛けでもある。

郊外型キャンパスでは、学生が1日をそこで過ごすことになる。学生がいてこそこのキャンパスであり、けやきテラス、さくらテラスの愛称も、学生の募集で決まったものだ。この美しいキャンパスを地域にも開放しており、春には約1000本の桜を見ようと近隣住民等が訪れる。近隣の他大学とも協力し、大学間も良くすることで、街全体が美しい郊外型キャンパスになればという。

(取材・文／本誌能地)

水辺は、幅、長さ、噴水の有無など、視覚的に一番安らげるのはどんな形か計算した。



入試説明会や講演会、就職ガイダンスに使用する3Fアセンブリーホール。



食事をおいしく感じられるように、椅子にオレンジやレッドを配色した2Fダイニングコート。



1Fは、ガラス越しに緑、テラス、水辺などのランドスケープが見える、学生の出会いの場。



ダイニングコートは、大学リーグ戦も行われるサッカー場を一望でき、観戦するのに絶好の場所でもある。